
正月に、九州国立博物館で開催中（3月17日まで）の『特別展 ポストン美術館 日本美術の至宝』に行ってきました。ポストン美術館は、海外での日本美術品の収集ではトップクラスで、今回は幻の国宝と言われるものの里帰りが目玉の1つです。また、仏画が多かったのも特徴です。その理由は、明治政府が国の政策で神仏混合を改めさせ、いわゆる「廃仏毀釈」のため、多くの仏像・仏画が破壊されたり、二束三文で取引されたそうです。来日し、大学で教鞭を振るったフェノロサは、日本美術に傾倒します。帰国した後は、ポストン美術館日本美術部長の職に就き、アメリカで熱心に日本美術を広めました。岡倉天心らと美術品の収集保存にも力を尽くしました。こうした事から優れた美術品が失われずに残った訳です。私たちがその価値に気づいていなかったのです。今日、多くの企業が自信を失い、保守的になっています。それもしかたないのですが、優れたことも多く残って（持って）おり、それに気づいていないのかもしれない。自分の会社は何のために存在するのか、何が強みか、原点に返って考え直すのも良いのかもしれない。

天満宮参道の店舗の仕事の依頼があったので帰りに周囲を覗いてみました。「梅ヶ枝餅」を扱っている店は多いのですが味の違いは分かりません。これでは立地や店舗の外内装が判断材料となります。部外者が勝手なことを言えば怒られるかも知れませんが、商品で差別化を図るのなら次のような考えが湧いてきます。

- ①サイズのバリエーションを増やす。標準・小さめ
- ②餡の種類を増やす。色：白あん・うぐいす餡など
- ③味の変化をつける 栗入り、シナモン入り など。大手和菓子屋の商品などを参考に出来ると思います。

成功の要件24

（前回の続き）

14. 長期の夢・目標に対しては楽観的に、目の前の問題に対しては冷静に。

未来は現在の延長線で考えてはいけません。技術・能力・経験、あるいは環境も変わっている（向上している）からです。大切な事は、必ず出来ると信じ続けることです。これに対して現在の問題は、「何とかなるだろう」というような甘い考えは捨て、真剣に全力で立ち向かうことです。

15. 組織やプロジェクトに参画する人たちの価値観をひとつにすること。

小さな仕事であれば価値観など関係ないかもしれませんが。しかし、大人数で大きな仕事する場合、個人の思いがバラバラであればうまくいきません。特にリスクや危険が伴う仕事では失敗する可能性が大きいです。何のためにするのか、しっかりと共通のゴールを共有することが大切です。

16. 困難な時でも、笑顔、明るい言葉・ねぎらいの言葉を忘れないこと。

心は行動（動作）によって変わると言われています。例えば、悲しいから泣くのではなく、泣くから悲しくなるのです。だから、困難なときこそ、努めて笑顔で明るい言葉を使いましょう。そうすることで心が前向きになり、早くチャンスに転じることが可能となります。